

第1学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年10月27日(月) 第5校時

13:25～14:10

対 象 第1学年1組 32名

学校名 墨田区立第一寺島小学校

授業者

会 場 2階 1年1組教室

令和7年度 研究主題

学びを深める児童の育成

～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～

1 単元名 「マイふきだしをつかって、わたしのぐっとポイントを2ねんせいにしょうかいしよう」

教材名 『くじらぐも』(光村図書 1年 下)

並行読書教材

『ぐりとぐらのおきゃくさま』『ぐりとぐらのえんそく』『ぐりとぐらのかいすいよく』

『ぐりとぐらのくるりくら』『ぐりとぐらとすみれちゃん』『ぐりとぐらのおおそうじ』

『ぐりとぐら』 (福音館書店 文 なかがわりえこ 絵 おおむらゆりこ)

2 単元の目標

- ・平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書くことの種類を知り、文や文章の中で使うことができる。 [知識及び技能] (1) ウ
- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 [知識及び技能] (1) ク
- ・中川李枝子さんの作品を読んで、大好きなところを紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) エ
- ・積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書くことの種類を知り、文や文章の中で使っている。 (1) ウ	①中川李枝子さんの作品を読んで、大好きなところを紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C (1) エ	①積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
②語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1) ク		

4 児童の実態

- ・『はなのみち』の学習では、挿絵の占める割合が多いため、場面を対比したり、時間の経過と共に場面構成を考えたりして、想像を広げて楽しんで読むことができた。しかし、登場人物の行動を具体的に想像するということには課題が残った。
- ・『おおきなかぶ』の学習では、役割読みや動作化を通して音読しながら、場面の様子を考えたり、登場人物の行動を想像したりすることができた。叙述や挿絵を基に具体的に想像して、楽しみながら学習することができたが、友達と伝え合うことが課題であるため、交流する機会を多く設ける必要がある。

5 教材について

本教材『くじらぐも』は、体育の授業時間という現実から、風によって空へと吹き飛ばされることで幻想の世界に入り、また現実の時間に戻ってくるという物語である。児童が想像しやすい身近な設定なので、場面の様子に着目しながら空想の世界を十分に楽しみ、登場人物の気持ちを想像しやすいと考える。

物語を読み進めていく中で、挿絵や叙述を基に想像を膨らますことを楽しみ、好きなところを見付けることは、作品に対して自分の思いや考えを持つ学習の初歩となる。児童が物語の世界を楽しんで読み、好きな挿絵や叙述を見付け、想像したことを自由に声に出して他者へ伝えていけるようにする。また、物語の設定や場面の様子を押さえながら、自分だったらと、感じたことを添えて話すなど、一人一人が自分の思いを言葉にして表現できるようにする。

並行読書教材では、教科書教材と同様に、児童が物語の世界を十分に楽しんで読み進め、挿絵や叙述を頼りに自分の好きなところを他者へ声に出して伝えたり、自分に置き換えて感じたことを表現したりしていけるように、同作者である中川李枝子さんの『ぐりとぐら』シリーズを用意した。

6 研究主題との関連

(1) 目指す児童像

低学年	中学年	高学年
言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする子

(2) 研究主題に迫るための手だて

①言語活動の工夫

ア 言語活動

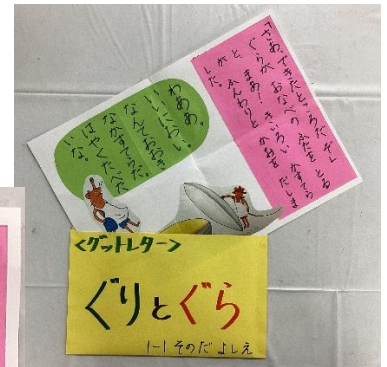
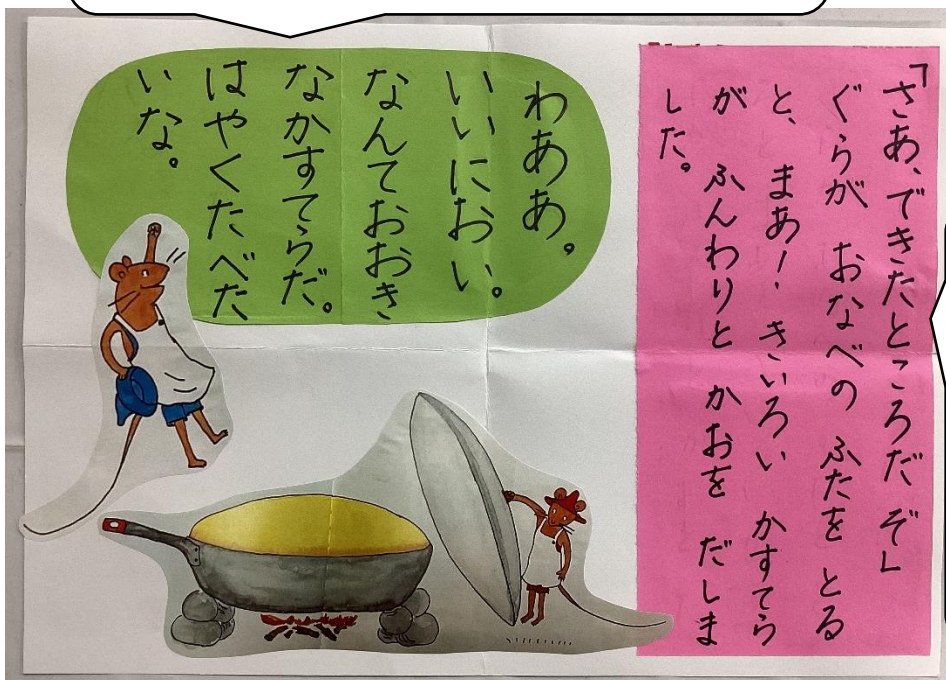
ぐっとポイント（大好きなところ）をマイ吹き出しを使って交流し、「ぐっとレター」を2年生に紹介する。

イ 言語活動の特徴

本単元では、『くじらぐも』の教科書教材と『ぐりとぐら』シリーズの並行読書教材を複数読み、場面の様子に着目しながら、登場人物の行動を具体的に想像していく。そのために、大好きな叙述を見付けたり、挿絵にマイ吹き出しを当てたりして想像したことを声に出して交流していく。また、交流したことを「ぐっとレター」にまとめるという活動を設定した。単元の最後には、実際に2年生に向けて紹介するという場を設けることで、児童の学習意欲へと繋げていく。

ウ 言語活動モデル

物語を読んで大好きなところを紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C (1) エ



ぐっとポイント
(大好きなところ)

②交流活動の工夫

ア 相手と目的を意識した交流活動の設定

交流活動の際には、教師が意図的に決めた相手と交流するのではなく、自分で相手を選び何度も交流を繰り返していく。相手を意識して交流していくことで、自分一人で想像していた言葉よりも、より確かなものにしていく。また、「くじらぐもさん、遊んでくれてありがとう。」

「おいしいカステラを作ろう。」などと、自分だったらこんなことを言うなという目的を明確にして交流させることで、具体的に想像を膨らませ、互いの考えを伝え合わせていく。

イ 交流の進め方をつかむためのモデル動画の作成

モデル動画を作成し、具体的に交流の仕方を示していく。

- ・相手を見付け、空いている席に座る。
- ・真ん中に本を置いてぐっとポイント（大好きなところ）を指差して一緒に読む。
- ・想像した会話をマイ吹き出しで伝え合う。
- ・聞き手も想像した会話を話す。

交流の留意点を、モデル動画という形で説明していく。交流の進め方を知ること、具体的に想像を広げ、学びを確かなものにしていく。

ウ 主体的に話し合いに参加するために

教科書教材では、児童が主体的に話し合いに参加できるようにするために、全文シートのぐっとポイント（大好きなところ）に付箋を貼る。また、並行読書教材の際は、並行読書マトリックス表を活用し交流する相手を選ぶ。教師が指示した相手ではなく、自分が交流したい相手を選び何度も交流することで、主体的に話し合いに参加できるようにしていく。

また、マイ吹き出しを交流の中で活用していく。マイ吹き出しを使って会話を繰り返し想像することで、物語の世界に入りやすくなると考える。登場人物になりきることで、自分の想像した会話の意味も明確になり、主体的に話し合いに参加できるようにしていく。

8 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）

次	時	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準 (評価方法)
第一次	1	ぐっとポイント（大好きなところ）を2年生に紹介するための、学習計画を立てよう。 ・教師のお薦めの物語の紹介を聞き、「ぐっとポイント（大好きなところ）をマイ吹き出しを使って、2年生に紹介しよう」という課題をもつ。 ・学習計画を立てる。	
第二次	2	『くじらぐも』 お気に入りのところを探しながら『くじらぐも』を読もう。 ・『くじらぐも』を読み、お気に入りのところにサイドラインを引く。 ・全文シートに付箋を貼りお気に入りのところを全体で確認する。 ・場面の様子が分かる挿絵にマイ吹き出しを当てて、「誰が、どうして、どうなったか」など、お話の大体の内容を交流する。	【知識・技能】① 平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書くことの種類を知り、文や文章の中で使っている。 (ぐっとレター) 【知識・技能】② 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(交流)
	3	「並行読書教材」 お気に入りのところを探しながら『ぐりとぐら』シリーズを読もう。 ・『ぐりとぐら』シリーズを読み、お気に入りのところに付箋を貼る。 ・場面の様子がわかる挿絵にマイ吹き出しを当てて、「誰が、どうして、どうなったか」など、お話の大体の内容を交流する。	
	4	『くじらぐも』 ぐっとポイント（大好きなところ）をはっきりさせ、「ぐっとレター」に書こう。 ・モデル動画から、交流の見通しをもつ。 ・全文シートの付箋を手掛かりに、相手を選んでお気に入りのところを交流する。 ・相手を変え何度も交流を繰り返し、ぐっとポイント（大好きなところ）を捉える。 ・交流したことを基に、ぐっとポイント（大好きなところ）をぐっとレターに書く。	

	5	「並行読書教材」 ぐっとポイント（大好きなところ）をはっきりさせ、「ぐっとレター」に書こう。 ・モデル動画から、交流の見通しをもつ。 ・並行読書マトリックス表を手掛かりに、相手を選んでお気に入りのところを交流する。 ・相手を変え何度も交流を繰り返し、ぐっとポイント（大好きなところ）を捉える。 ・交流したことを基に、ぐっとポイント（大好きなところ）をぐっとレターに書く。	【思考・判断・表現】 物語を読んで大好きなところを紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（交流・ぐっとレター） 【主体的に取り組む態度】 積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。（交流・ぐっとレター）
	6	『くじらぐも』 ぐっとポイント（大好きなところ）をマイ吹き出しを使って交流し、「ぐっとレター」の吹き出しに書こう。 ・モデル動画から、交流の見通しをもつ。 ・ぐっとポイント（大好きなところ）の登場人物の行動をその想像するために、マイ吹き出しを使って交流する。 ・相手を変え何度も交流を繰り返し、ぐっとポイント（大好きなところ）の会話を具体的に想像できるようにする。 ・交流したことを基に、ぐっとポイント（大好きなところ）の会話をぐっとレターに書く。	
	7 （本時）	「並行読書教材」 ぐっとポイント（大好きなところ）をマイ吹き出しを使って交流し、「ぐっとレター」の吹き出しに書こう。 ・モデル動画から、交流の見通しをもつ。 ・ぐっとポイント（大好きなところ）の登場人物の行動を想像するために、マイ吹き出しを使って交流する。 ・相手を変え何度も交流を繰り返し、ぐっとポイント（大好きなところ）の会話を具体的に想像できるようにする。 ・交流したことを基に、ぐっとポイント（大好きなところ）の会話をぐっとレターに書く。	
事後	8	「並行読書教材」 ぐっとポイント（大好きなところ）を2年生に紹介しよう。 ・完成したぐっとレターを2年生に紹介する。	【主体的に取り組む態度】 積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。（紹介・ぐっとレター）

9 本時（全8時間中の第7時間目）

（1）本時の目標

ぐっとポイント（大好きなところ）の会話について交流し、「ぐっとレター」にまとめよう。

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	1 単元のゴールを確認する。	・単元のゴールを明確にするために、言語活動モデルと学習計画表を確認する。	
	2 前時の学習を振り返る。	・「くじらぐも」のぐっとポイントを、マイ吹き出しを使って交流活動を繰り返してきたことを振り返る。	
	3 本時のめあてを確認する。	・モデル動画を見て、交流の見通しをもつ。	
『ぐりとぐら』シリーズ ぐっとポイントを、マイふきだしをつかってこうりゅうし、「ぐっとレター」のふきだしにかこう。			
展開 (37分)	4 ぐっとポイントの会話をぐっとレターにまとめるために、マイ吹き出しを使って交流し、自分の考えをはっきりさせる。	・並行読書マトリックス表を活用して、同じ本を選んだ友達やお勧めしたい本の友達等、意図的に相手を選んで交流させる。 ・紹介したい本の叙述や挿絵にマイ吹き出しを当てて、想像した会話を交流させる。 ・交流が停滞しているペアには、教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、「自分だったらどんなことを話す？」などと質問をして、交流を促していく。	【思考・判断・表現】 物語を読んで大好きなところを紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（交流・ぐっとレター） 【A 基準】 マイ吹き出しを使って、「自分だったらこんなことを言う」と登場人物の行動を具体的に想像し、交流している。 【B 基準】 マイ吹き出しを使って交流している。
	5 交流したことを基に、ぐっとポイントの会話をグットレターにまとめる。	・十分に交流を繰り返し、自分の考えがはっきりした児童から、自席に戻りぐっとレターに交流したことをまとめる。	【B 基準に達しない児童への手立て】 教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、「自分だったらどんなことを話す？」などと問いかけ、会話の例と一緒に考える。
まとめ (2分)	6 本時の学習を振り返る。	・本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	

(3) 研究の視点

- ・ 並行読書マトリックス表やモデル動画は、児童が主体的に交流するための手助けとなっていたか。
- ・ マイ吹き出しは、児童が会話を想像して交流するために有効だったか。

(4) 板書計画

